

最近の主な動きを お伝えします 市政トピックス



▲建物名などにはローマ字表記も加えてあります。

清水寺の参道入口に建つ観光案内看板を新たに建て替え、10月21日、関係者に披露しました。これまでの看板は昭和30年代に建てられたもので、老朽化が進んでいました。新たな看板は縦3・6m、横3・4mで、境内を俯瞰した角度から建物・名所を紹介し、背景には中海や大山が描かれています。また、紅葉やアジサイ、サクラなども紹介され、自然豊かな地であることが分かります。

清水寺は年間約30万人が訪れる市内有数の観光地です。清水観光協会の青砥洋会長は「清水寺の玄関口なので、この看板でよい印象につながれば」と話していました。

清水寺の観光案内看板を50年ぶりにリニューアル

11月から一部のイエローバスの車内前部分に、バス停案内のモニターを設置しました。これまででは運転手のアナウンスによる案内でしたが、導入車両では、次のバス停を常に画面に表示。また、市のキャラクター「あらエツサくん」とともに、ドジョウのイラストが起用されるなど親しみやすい表示となっています。

この案内システムを搭載したバスは全5台。市内の15路線を順次、運行しています。

イエローバスに バス停案内表示を設置



▲画面には料金も表示されています。



▲記念碑は多くの皆さんからの寄付で建立されました。
▼除幕を行う近藤市長ら関係者。地元の子どもたちも参加しました。

戦後、フィリピンで裁判を受けていた戦犯の助命活動に取り組んだ加納莞蓄は、キリノ大統領に43通もの手紙を発信。手紙に「許し難きを赦す」と書かれたように、大統領自身も妻子を日本兵に殺害されていました。しかし、莞蓄の活動に込めるようにに戦犯たちを解放。平和に向けた第一歩が起こされました。碑はこの二人の関係を未来に

語り継ぎ、恒久の平和を願う目的で建立。碑の大きさは縦1・8m、横3m。二人の関係を刻むとともに、会見時の写真が取り付けられています。また、写真の周りにはキリノ元大統領の殺された子どもを忘れないという思いから3人のキューピットが舞っています。



来日したキリノ元大統領の孫のエディ・キリノさんは「日本人が大統領の行いをこのように認知してくれていることをうれしく思う」と話していました。

日比友好60周年の記念の年に「平和友好の碑」が除幕され、未来へ語り継ぐ